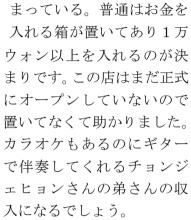
ホソンヒさんの歌声

ひとしきりビールや洋酒を飲んで歓談していると、私は疲れが出てあくびをしだした。すかさず金泰成さんが歌うことを勧めてくれた。



2曲でワンステージと決

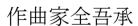


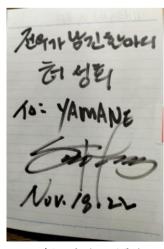
金泰成さんも日本の歌を2曲歌いました。



いよいよ、ホソンヒさん が舞台に立ちました。『戦 友が残した一言』は、声も 良く出ていて迫力があり ました。感動しました。新 曲も歌ってくれ、サインも 新曲の CD もいただきま

した。家宝にします。





私は、22日にソウル に住む在日コリアンの 写真家である趙炯治 (チョヒョンチ・82 歳) さんと教大(キョ デ)駅で会った。

彼から頼まれた醤油 味の煎餅をお土産に持

って行ったら、近くのふぐスープ (북어탕) の 老舗で珍しいふぐの干物 (북어포) を買ってく れた。まさに「海老で鯛を釣る」でした。

アンコウの蒸し物(아귀찜)をごちそうにな

って喫茶店で趙炯治さんは共通の友人である名 古屋の朴燦鎬 (パクチャンホ) さんに電話をか けられた。朴燦鎬さんは、声は元気そうだった。

その朴燦鎬さんが書かれた『韓国歌謡史 II 1945-1980』(2018年邑楽舎) P192 を引用させていただき記述します。

"兄妹・大衆歌謡人"全吾承(チョンオスン)全吾承は、1923 年3月23 日平安北道鎮南浦に生まれた。(~2016 年7月3日アメリカで死去)本名は全鳳壽でベース奏者だった。早くからギターに親しみ、解放後、ひとりで越南してソウルに行き、一時、大韓交響楽団に加入した。6・25直前に作曲を始めたらしく、オーケーレコードで何曲か発表したようだ。まもなく全吾星という名で『インドの香火』を発表し、大衆歌謡の売れっ子になった彼は、さらに筆名を全吾承に改めて新曲を発表した。還都以後、全吾承は歌手・明國煥(ミョングクワァン)とのコンビで『放浪詩人金笠(キムサッカ』『白馬よ泣くな』『アリゾナカウボーイ』『公主の悲恋』などのヒット曲を立て続けに放った。(以下省略)

80年代に米国ロサンゼルスに移民した。

50 年代に活躍した元老作曲家が 1972 年『オウム・앵무州』のデビュー以来鳴かず飛ばずの歌手ホソンヒのために 1977 年この曲を作り「全吾承作曲集」として LP レコードを発表した。

彼はこの歌を朝鮮戦争で戦死した実弟全基承 (チョンキスン)を懐かしみ、すべての参戦勇士たち に捧げる追悼歌として作った、という。

ホソンヒさんは、「この行進曲風の歌を偶然に 聴いた朴正煕大統領がとても気に入り、全軍部 隊にこの歌の拡散を強く勧めた」ことも大ヒッ トの要因だと言っている。

翌 1978 年にジャケットを変えて発売して大ヒットしました。

横の写真は、私が所 有する 1978年6月 10 日発売の「世光大衆歌 謡」という雑誌の記事 です。「われらはヒット 製造機」『戦友が残した 一言』のホソンヒと全 吾承。楽譜もきっちり 載せられています。

